

農作物技術情報 第5号 畜産

発行日 令和7年7月31日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆牧 草 牧草地の作業は、高温・乾燥時を極力避けましょう。再生草を収穫する場合は、夏枯れを避けるため高刈りしましょう。また、追肥は、可能であれば乾燥時を避け、降水の前後に行いましょう。
- ◆飼料用とうもろこし 登熟が早まることが予想されますので、収穫の準備をすすめましょう。
- ◆大 家 畜 牛舎環境面や飼料給与面からの暑熱対策を継続しましょう。

牧草

1 生育状況

2 番草は、7月20日頃から収穫が盛期となっています。降水量が少ないため、草丈がやや低く、収量もやや不良、1 番草収穫後からの日数も経過しており、やや刈り遅れとなっています。

2 再生草の管理

寒地型牧草は、概ね平均気温 25℃以上で生育が止まり、30℃を超えると夏枯れします。刈取や施肥は高温・乾燥時を避け、可能な限り降雨前後や曇天時に行います。

飼料用とうもろこし

1 生育状況

草丈は平年並み～やや短く推移していますが、雄穂の出穂が5～10日早くなっています。登熟も早まることが予想されますので、機械のメンテナンスや資材の購入等、収穫準備を早めに行います。

2 野生鳥獣被害の確認

これまで被害の無かった圃場で、シカやイノシシの食害が散見されています。圃場周辺の草刈りを実施して電気柵が機能しているか再確認するとともに、次年度に向けて被害痕から野生獣を特定します。



写真1 圃場周辺の草刈り



写真2 イノシシによる食害を受けた飼料用とうもろこし

大家畜

酷暑が続いています。牛舎環境面と飼料給与面からの暑熱対策を徹底し、分娩前後の代謝病や繁殖障害を予防するとともに、乳牛では、乳量の減少や乳成分の低下を最小に抑えます。「農作物技術情報第3号及び第4号 畜産」（令和7年5月29日及び6月26日）並びに「農作物技術情報特別号 高温対策」（令和7年6月16日）も参照し対応を継続してください。

1 暑熱対策

（1）牛舎周辺の遮熱、遮光

屋根表面への遮熱塗料やドロマイト石灰の塗布、屋根表面への散水、屋根表面への寒冷紗の設置、屋根裏へのウレタン断熱材の吹き付け、牛舎の軒下や窓への寒冷紗の設置など、対策できることを徹底し、牛舎内に熱を入れない対策を行います。

（2）牛舎内の送風と換気

牛体周辺に2 m/秒の風が流れるように送風を行い、体感温度を下げます。牛体に直接送風する場合は、頸から肩に風を当てます。日中の気温が25℃を超えた日は、夜間も積極的に送風します。同じ気温でも、湿度が高いとTHI（温湿度指数）が上昇し体感温度が上がるので、細霧装置等牛舎内で水を使用する場合は、適切に換気して湿度が上がらないように管理します。

（3）給水施設の整備と給水量の確保

気温の上昇に伴い飲水量が増えるので、十分な飲水量を確保します。水槽やウォーターカップは毎日清掃します。

（4）飼料給与

粗飼料は、ルーメンに滞留する時間が長いほど発酵熱が増加するので、消化性の良い粗飼料を給与します。

飼料の採食量と反芻が減るとルーメンへの唾液の流入量が減少します。また、呼吸数の増加に伴い唾液中の重碳酸イオンの含量が減少します。このため重曹入りの固形塩、重曹入りのペレットの給与、配合飼料への重曹の添加（目安 100～200g/日・頭）などを対策します。（低カルシウム血症、乳房浮腫を誘発する恐れがあるので、乾乳牛には重曹給与は行いません。）

発汗等によりカルシウム、リン、マグネシウムの要求量も増加するので、乾乳後期牛を除き、通常の1～2割増給します。

暑熱時の体温上昇で酸化ストレスが増加するとビタミン類の消耗も増えるため、ビタミンEやセレンなどの抗酸化添加剤の増給も検討します。

涼しい時間帯（朝、夕方から夜間）の給餌量を増やします。

2 サシバエ対策

サシバエは様々な病気を伝播するなど、衛生的な問題や飼養摂取量の低下、休息ができないストレスから牛へ大きなダメージを与えます。温度が高いと卵から成虫になるまでの日数が短くなり（表1）、夏から秋にかけて被害が多くなることから、今のうちから対策すると効果的です。

（1）環境整備

発生源となる堆肥、敷料、残飼の管理が重要です。堆肥は中心温度が65℃以上になるように切り返し等を行います。汚れた敷料や飼槽周りの残飼はきれいに片づけます。

（2）物理的・生物学的防除

防虫ネットや送風、天敵利用でサシバエの侵入を防ぎます。

（3）化学的防除

幼虫の脱皮や羽化を阻害するIGR剤を、幼虫（ウジ虫）のいるマットの隙間や壁と床の角などに月1回散布します。

成虫には、牛舎周辺の草むらへの殺虫剤の煙霧などが効果を発揮します。月1回程度の実施が効果的です。



写真3 草むらで休息するサシバエ

表1 卵から成虫になるまでの日数

温度(℃)	日数(日)
35	6～8
30	8～10
25	11～13
20	18～21
16	36～42

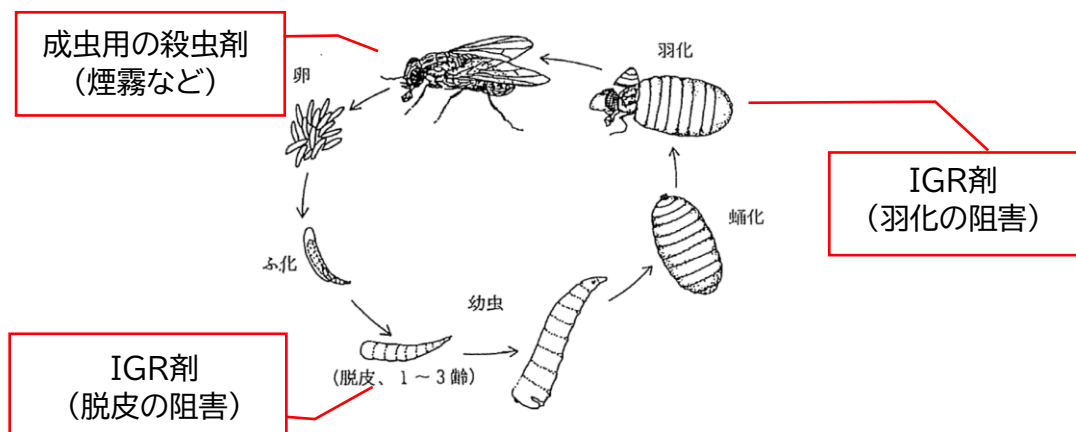


図2 ハエのライフサイクルと防除方法
(栃木県畜産試験場ハエ防除マニュアルに加筆)

次号は8月28日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。